

学びのホームグラウンド じんけん楽習塾



2013年
7月10日号
NO 4号
♪じんけんワンだふる&
ニャンだふる



OYA OYA 通信

6月26日
異文化コミュニケーションとパワー・バ
ランス 富岡美知子（異文化コミュニケ
ーション・トレーナー）

今回のじんけん楽習塾は40名といつもよりたくさんの方が参加がありました。これは、大阪女学院大学の学生が10人ほど参加してくれたからです。



まず、40人がサークルになって椅子に座ったところからはじまりました。ジャンケンを使ってのアイスブレイキング。5人に勝つ、5人とアイコになる、勝ち負けにこだわるのと、アイコになるのでは違うと改めて思いました。

その後3人の人が会場の外で待つことになりました。私もその一人だったのですが、中で何が行われているかわかりません。ずいぶん長い時間を感じました。中から、拍手の音が聞こえて、しばらくして、中に呼ばれました。



富岡さんから、話をしてはいけないといわれ、おそろおそろみんなの輪の中に座ります。どうも数字を

順番にナンバーコールしているようです。手で指された人が数字をいい、また別の人を指します。私も

指されてほかの人にふったら、あーというため息とともに、1からナンバーコールのやりなしです。後から参加した私は、そのルールを探りながら参加しなくてはなりません。なんだか、視線を合わせず、指名されないようにしたくなりました。このプログラムはあるゴールがあるのですが、ここではくわしくはいいません。私たちが外の廊下に出ている間に会場中で、マジョリティーのルールという文化が作られていたのです。後から参加した私たちはマイノリティーとしての葛藤を経験しました。

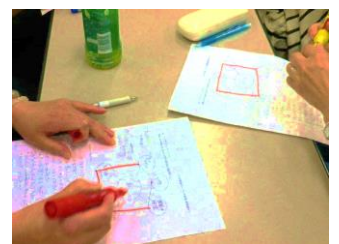
その後休憩の後

6人ぐらいのグループに分かれてアイデンティティの分子をしました。10個の「わたしは〇〇



だ。」という文章を作り、その中からより重要と思える5つを選んでいきます。そのえらんだアイデンティティが社会的不利と思われるのか、有利と思われるか、どちらでもないのか考えました。「私は男だ」とした人で、不利が一人、後の人はどちらでもないで、「私は女だ」とした人は全員不利だとこたえていたのが印象的でした。

当たり前になっていることが、すでに特権であり、そのあたりまえが保障されていない、認められていないことが差別的構造なんだと思いました。マジョリティーはあたりまえなの



に何が問題?とその構造に気づきにくいのかもしれません。

そのあとに在日コリアンの1世がデサービスで簡単な体操をしないという事例と、生活保護で暮らす在日コリアンの事例をグループで考えました。

体操をしないのは、学校に行っていないために体操という経験がないということ。私たちは当たり前のように、ラジオ体操をしたりしますが、学校という文化からはじきとばされるとそれがわからないのです。でも、その背景をしらないと、なんてわがままな集団行動を乱す人だなどと思われ、それがあの民族はという偏見差別につながっていきます。

後者の生活保護の件では、例えば現在は厚生年金を払っていた会社が倒産しても、国民年金に引き続き加入して、受給要件を満たします。でも在日コリアンは日本が難民条約に加入する1982年まで長い間、外国籍だからと国民年金に加入できませんでした。私の母は小さな会社に数年厚生年金を払ってきましたが、会社が倒産、国民年金に加入しようとしても外国人のため断られ、掛け金は掛け捨て、無年金のままでした。こういったことはなかなかしられずにいます。

こういうマイノリティーの背景をマジョリティーは知ることなく生活することもできます。だからこそ、あえて知ることが大切なんだと思いました。それが、人権教育でもあると思いました。

(文責ぼんみ)



【みなさんの感想】



■在日コリアンの年金の話は、聞いてつらかったなあ。よくネットの掲示板で在日や中国人へのバッシングの文言を見かけるけど、なんでここまで言うんやろと思います。でも、自分は差別はあかんと思いつつ、いわゆるマイノリティーの人に個人的に嫌なことされたら、正直、くやしくて、こい

つも嫌な目にあつたらいいのに、差別されて、気持ちわかれよと、思ってしまうこともあります。嫌いとは差別は区別せなあかんとわかりつつ、怒りの気持ちにつき支配される自分をどうコントロールしたらいいのかと思います。

- ・排除する 心はどうして なくせるか
- ・多様性 おもしろいことも あるのにな
- ・人数は、多いが女性もマイノリティー
- ・嫌いでも 差別はあかん と知っている
- ・頭では わかってんねんけど 心では
- ・わたくしは マジョリティーかつ マイノリティー

■この講義に参加できたことで、私は自分のことマジョリティーと感じたことがなかったのですが、今回の事例について考えたことで、私はマイノリティーの人たちの考えたいことや立場を考えてあげてないことがすごく感じました。

もっとこういうワークショップに参加できればよいなあと思いました。

■切り口ありがとうございました。

■今回のレジュメに

文化とは?

「ある集団の人々によりほぼ共有されているものの見方、考え方、価値観、行動のとり方、その他。これらは変化していくもの」

とあります。

今回集まった人たちは、男性と女性、学生と一般の片寄りもなく、私には良い「集団」だと感じました。だからこそ更にいい内容にもなったと思えました。

